



佐々木小

「…、水を飲ますことはできない」とは言うけれど

校長 齋藤 博敏

早いもので、1学期の終業を迎えました。1学期76日（1年生は75日）の学校生活が、子どもたち一人一人の成長につながっていた。と信じたいです。「教える」とひと口に言いますが、教えたことが子どもたち一人一人の力になるようにするのは簡単ではないからです。

イギリスに伝わることわざにこんな言葉があります。

「馬を水辺に連れて行くことはできるが、水を飲ますことはできない」

(You can take a horse to the water, but you can't make him drink.)

飼い主が、馬が水を飲みたいだろうと判断して馬を水辺に連れて行っても、馬は水を飲むとは限りません。馬自身が、喉が渇いていなければ水を飲んだりしないわけです。

それと同様に、教師や親が、子どもに勉強させようと思って、あれこれしてみても、子ども自身が勉強しようと思わなければ、なかなか勉強しないということが言えます。

戦後、日本がまだ貧しい時代、子どもが勉強しようと思って、なかなか勉強できる環境は得られませんでした。そんな中でも、一生懸命勉強して目標を達成した人もいれば、家庭の事情などで小学校を出ただけで働かざるを得なかった人たちもいました。

あの頃は、勉強しようと思って、十分に勉強できる環境が整っていませんでした。ことわざの馬に例えて言うのは失礼かとは思いますが、子どもたちは「喉が渇いていた」状態だったのです。ですから自力で水辺に行き、自力で水を飲みました。

しかし、今はどうでしょうか。ほとんどの子が勉強できる環境は整っています。進学しようと思ったときに環境の面で妨げられることは、ほとんどありません。

さて、子どもたちは、今、「水が飲みたい」でしょうか。

どんなに周りが頑張っても、本人の意欲がなければ勉強させることはできません。本当にやる気を出せるのは、自分自身しかないのです。そうは言っても、子ども自身が「やる気を出す」まで待っていただけられません。あっという間に大人になってしまいます。ですので、学校では、子どもがやる気を出すように、教師が働きかけを工夫して指導してきたつもりでいます。不十分さは多少なりともあったとは思いますが…。

明日から夏休みになります。夏の暑さに負けたり、楽な方に流されたりすることもあるでしょう。保護者や地域の皆様から見ていただいて、子どもがやる気になれるように、働きかけていただきたいと思います。

また、事件や事故にあわないために、してはいけないことはしないということも、皆様からしっかり教えていただきたいと思います。

夏休みが子どもたち一人一人にとって、よい体験となりますことを、願っています。

